

容器包装の品質保証

学生時代、通学時の車窓から、なにげなく眺めていたサントリーに縁あって入社した。入社直後に品質保証部分析センター（現安全性科学センター）に配属され、主にPETボトルや缶など容器包装の品質保証、開発に20年ほど携わった。日々の生活に不可欠な容器が飲料のおいしさを保つ役割を担っていることを科学的に理解できるのが楽しかった。

凛としていきる

理系女性の挑戦

達成感が人を強くする



なじみのあるにおいてあれば数日でわかるが、経験のないものだけに、10日かけてあらゆる分析を行っても特定できない。もうお手上げだった。

「結果があるものには必ず原因がある」というかつて上司に言われた言葉を思い出し、それまでの作業を同僚と精査し、執念、根性という言葉がふさわしい地道な作業を繰り返して、ようやく成分を特定できた。その時の喜びは今でも覚えている。いつも周りの人に助けられている

安全性科学センターのメンバーと（前列中央が中田さん）

こと、出した結果が新たな提案や改善につながり、達成感が人を強くすることを学んだ。この経験はメンバーク時に役立っている。2度の育児休暇を利用した。子供たちは幼い頃から「今日はどういうお仕事をしてきたの？」と毎日のように質問してきた。もちろん詳しく話すわけはないのだが、私のちよっぴり科学めいた話に目をキラキラさせながら耳を傾け、失敗した話をしたときは「大丈夫？」と、心配してくれた。仕事と子育ての両

立に悩み、時に立ち止まることもあったが、子供たちの将来の目標と私が歩んできた経験が重なった現在、大きな間違いはなかったと安堵している。「子供たちに安心して提供できる」製品こそがお客様に安心して提供できる製法づくりにつながるといふ思いで品質保証に携わってきた。今後、企業のグローバル化が進み、安全・安心な食品に対するお客様の期待が高まることが予想される。家族、同僚、上司の協力と理解のほか、会社に支えられて現在の私がいることに感謝し、食品の品質保証への

の従事を通して社会に貢献していきたいと思っている。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

（火曜日に掲載）

サントリービジネスエキスパート 安全性科学センター部長 中田 滝子



△プロフィール▽ 90年サントリー入社、品質保証部分析センター（現安全性科学センター）に配属、主に容器包装の品質保証に従事。16年より現職。